

AIで進化する精神看護 ―認知行動療法とチャットロボットによる新時代の看護師のメンタルヘルス支援―

○石塚 真美¹⁾、岡田 佳詠¹⁾、室井 慧²⁾、蜂須賀智子³⁾、氏家 好野⁴⁾

1) 国際医療福祉大学 成田看護学部 看護学科、2) 筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構、

3) 地方独立行政法人東金九十九里地域医療センター 東千葉メディカルセンター、4) 株式会社Plusbase

精神看護におけるAI活用は、看護師のメンタルヘルスケアにも新たな可能性をもたらしています。医療現場では、看護師のメンタルヘルス対策が喫緊の課題となっており、より効果的で持続可能なケア手法が求められています。本ワークショップでは、AI研究の動向、認知行動療法のこれからの可能性、看護師向けメンタルヘルスケアアプリを用いた実装の経験を共有し、看護師のメンタルヘルス支援におけるAI活用の可能性を探索します。

ワークショップは、現代の精神看護における課題とAIがもたらす可能性の概要から始まり、以下の展開で進めていきます。まず、メンタルヘルスとAI研究者から、メンタルヘルスケアアプリの最新研究動向とエビデンスについて解説します。続いて、認知行動療法の研究者より、これまでの認知行動療法の実践とAI活用の展望について、理論的基盤とテクノロジーの統合による新たな可能性を提示します。その後、実際にアプリを導入した医療機関の事例として、現場での導入までの課題や実装プロセスとその効果について、専門看護師の視点から説明します。最終パートでは、実際のアプリケーションを用いたデモンストレーションを実施し、参加者が認

知行動療法のフレームで構築されたAIチャットロボットとの対話を通じた気づきのプロセスを体験的に学びます。LINEを活用したAIチャットロボットは、記録ができるカレンダー、自動会話整理機能、ストレスチェック機能などを備えており、看護師が日常的に自身のメンタルヘルスケアに取り組めるよう設計されています。特徴的なのは、認知行動療法の理論に基づいた対話設計により、利用者の気づきを促し、心理的な支援を提供できるような仕様になっています。

本ワークショップを通じて、AI時代における看護師のメンタルヘルス支援の新たな可能性と実践的な導入のヒントを具体的に示していきます。テクノロジーの活用により、看護師自身のメンタルヘルスケアがより身近で継続的なものとなり、参加者の皆様とともに、質の高い看護の提供につながる次世代の精神看護の実現を目指します。また、倫理的配慮として、AIチャットロボットでは個人情報収集しないことを参加者の方に口頭で説明いたします。

※実際のアプリケーション体験のため、参加者はスマートフォンまたはタブレットをご持参ください。